

単元名

「幡多の未来のために！～Nuestras ideas なかこう生からの提案～」

氏名：次田 由梨

学校名：高知県立中村高等学校

担当教科：国語

実践教科：ロングホームルーム

時間数：1

対象学年：高校1年生

人数：40名（欠席1名）

【実践概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：		
戦後の、日本（高知県）からパラグアイへの移住者たちの作った日系社会を知り、自分たちのアイデンティティを大切にする生き方から、地元の将来像を考える。		
【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	日系人社会の成り立ちから、幡多地域での町作りや地域活性に活かせる視点を探ろうとしている。
	（イ）思考・判断・表現	日系人社会での生活への意識、態度と、幡多地域での生活への課題を照らし合わせて、幡多の今後を考えている。
	（ウ）技能	
	（エ）知識・理解	日本（高知県）から南米への移住者が多く存在し、当地で活躍してきた歴史的事実を知っている。
【3】 単元設定の 理由	① 生徒観 本校の生徒は、高知県西部（幡多地域）全域の、さまざまな中学校の出身者で構成されている。この地域の中では進学校という位置づけにあり、学習意欲は比較的高いと言えるが、やや受身な態度や保守的な面があり、1、2年次には、総合的な学習の時間とロングホームの時間を通して、地域探求学習に取り組むことなどで「自分・地域を語る」生徒を目指している。 対象クラスの生徒は、1名を除いて大学・専門学校への進学を希望しており、地元への貢献や地域活性への興味・関心、将来的には地元での就職希望を持つ生徒も多い。これまでの「総合的な学習の時間」に進路学習として、地域との関わり方について1時間学習している。地域についての課題として、「人口減少」「過疎化」「少子高齢化」などのキーワードはすでに認識している。 授業者が研修に行く前に取ったアンケートでは、高知県に南米移住の歴史があることを知っている生徒はおらず、移住・移民というト	

ラジルや満州というイメージが数名の生徒から挙げられた。

また、クラス全体の授業態度としてはペア活動やグループ活動には慣れている。分からないことや、確認したいことをその場で大きな声で発言できる生徒も複数名いる一方で、居眠りや私語など集中力に欠けたり、学習意欲の低い生徒も複数名いる。

② 教材観

はじめに、本実践では、高知県西部出身の生徒が対象となるので、高知県やこの地域に関わりのある、南米移住についてをテーマにしたいと考えた。授業者が、教師海外研修全体を通じて得た知識や考え方、感じたことは、生徒にとって総じて新鮮で、興味深い内容に映ると考えられるが、対象生徒の特徴と、本校での「地域探求学習」の取り組みを考えると「移住」がキーワードになると考えたからだ。

次に、実践にあたり、日本、高知県の南米・パラグアイへの移住への歴史的事実と、授業者自身が教師海外研修で関係者から聞いたことをまとめることが、直接的な教材となった。歴史的事実だけではなく、毎日顔を合わせている授業者自身が、日系移住者たちと接した事実を伝えることで、遠い異国の話題を自分のこととして引き寄せて考えられるように考えた。

この教材は、単にパラグアイの生活や文化への見聞を広げるものではなく、あくまでも目の前にある自分の地域の課題解決に向けて、パラグアイの日系社会の成り立ちを知るものである。よって、パラグアイや日系社会の知識として不十分な点や偏りもあると思うが、日系人による現地での社会形成や町作りの軌跡を主にすることで、本来の目的から脱線しないようにと教材作りをした。

③ 指導観

本実践は、地域探求学習の第一歩としての位置づけである。まずは、学習の前段階でもそれぞれに地域への関心というものはあることを体感させるため、今自分たちがこの地域に対して持っている思いや考えを出させる。自分の住んでいる地域について、程度の差こそあれ、誰しもが何かを思い、考え、さらには良くしたいという願いがあることから、地域について学び、考えていく「地域探求学習」の必要性や意義を確認させたい。

また、自分の思いや考えを、外に出し、ペアで共有し、課題そのものの多様性や、その対応策の多様性にも気づき、今後自分たちなりの

	<p>自由な発想で問題に向き合うことができるようなきっかけを与えたい。よって、生徒の思いや考えの中には、地域に対して良くない印象や国家レベルの大きな課題も出てくるかもしれないが、この時点ではそれを否定的に捉えないようにする。</p> <p>最後に、パラグアイの日系人社会に関する情報は、あくまでも自分たちの住んでいる地域について見つめ直す一つの材料であるという点に留意する。海外についての興味や関心に引きずられて、生徒が単に授業者の海外研修での出来事を聞くという受け身な態度を作らないようにしたいからだ。</p> <p>ただ、パラグアイや日系社会、地域課題について、今回の授業で出た疑問や感想によっては、今後、知識を身につける機会や、日系社会の実際を知ることには時間を割きたい。</p>
--	---

【4】展開計画（全1時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	戦後の、日本（高知県）からパラグアイへの移住者たちの作った日系社会を知り、自分たちのアイデンティティを大切に生きる生き方から、地元の将来像を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入 幡多地域がこれから進んでいく姿やそのための方策を、個人・ペアで出し合う。 ・ 展開① 豊かな暮らしをしたと思って、パラグアイへ移住した人々の作った日系社会を知る。(パワーポイント) ・ 展開② パラグアイ移住者たちが、豊かな生活を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイント ・ ワークシート

		<p>手に入れた要因を、個人・ペアで出し合う。</p> <p>・まとめ</p> <p>改めて、幡多地域がこれから進んでいく姿やそのための方策を、個人で考える。</p>	
--	--	---	--

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点	資料（教材）
導入（10分）	幡多地域がこれから進んでいく姿やそのための方策を、個人・ペアで出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・今知っていることや考えていることを、自由に出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
展開①②（30分）	① 豊かな暮らしをしたと思って、パラグアイへ移住した人々の作った日系社会を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・質問などあればその都度発言させる。 ・単なる旅行のプレゼンにならないように、注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント
	② パラグアイ移住者たちが、豊かな生活を手に入れた要因を、個人・ペアで出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな」という抽象的な言葉を使い、その解釈を生徒にゆだね、人間の生活にとって必要なことと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

<p>まとめ（10分）</p>	<p>改めて、幡多地域がこれから進んでいく姿やそのための方策を、個人で考える。感想等を書く。</p>	<p>は何か考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田舎だからダメなわけでも、都会や流行に追随すればいいわけでもなく、その土地の特色をよく理解しそれを強みとして生かすことに目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<p>【授業実践の様子】</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、地域課題についての取り組みや考えを持っていた。 ・パワーポイントのパラグアイの写真に興味を持っている生徒がいた。 ・居眠りや落書きをしている生徒がいた。 			
<p>【6】本時の振り返り</p>			
<p>成果としては、今までにない形で「地域探求学習」をスタートさせたことが挙げられる。昨年度、本校では2年生が1年間かけて「地域探求学習」に取り組んだが、地域の歴史や文化に触れるような研究や発想はなかった。この分野については、義務教育の段階で各校区の中での限定的で深い学びをしているのかもしれないが、高校生段階でさらに追究することで、社会のさまざまな事象への気付きや今後の進路に活かせる点もあると考えられる。</p> <p>また、本実践の導入での活動でも分かるように、生徒は、自分の住んでいる地域について、程度の差こそあれ、誰もが何か思っていることや、考えていること、さらには良くしたいという願いがある。この下地を今後の活動で有効に活用することで、地域について学び、考えていく「地域探求学習」の必要性や意義を認識しやすくなると考える。</p> <p>よって、高知県の中でも県民の南米移住の歴史や、日系社会、南米との関わりへの認知度は低いので、特に移住者の多かった県西部の生徒が、この歴史的事実を知る機会となったのは「地域探求活動」の本来の目的に適っていると感じた。</p> <p>課題としては、一つ目にパラグアイの日系社会についての情報量が少なく、生徒に誤った認識を持たせたり、美化させる可能性があることが挙げられる。</p> <p>二つ目に、地元の課題とパラグアイの日系社会の成り立ちとの相関性に生徒自らの力で気付かせる仕掛けや時間がなく、積極的な探究活動にはなっていないことが挙げられる。</p> <p>三つ目に、日本の中での、町作りや地域活性などの取り組みは、昨今のトレンドであ</p>			

るのでニュースや新聞で目にする機会は豊富にあり、生徒にも一定の知識がある。よって、今回の例のように、わざわざ海外での一昔前の日本人の取り組みを、その一例として取り上げることには限界があると感じた。今後の「地域探求学習」の活動の中でも継続的にパラグアイの日系社会の例に触れないと、単発のイベントのように捉えられてしまう可能性も高い。

【7】単元を通した生徒の反応／変化

○「感想・日系人に聞いてみたいことなど」

・日系人のように文化も大切にしながら、その土地に合った発展が幡多でもできればいいと思う。

・これからは改めて地域問題と向き合っていないといけないということが分かった。

・見知らぬ土地で何も無いところから社会を作っていくのは大変だと思う。何十年もたっているのに、いまだに日本の文化が続いているのがすごい。日系の人は自分を何人だととらえているのか。

・努力することは大事なことだと思いました。

・あきらめない心って大切なんだなと思った。

・国によって違いがあるけど、自分たちの伝統が広がるのにどのくらいかかったのか。

・どのようにして日本の知識などを受け入れてもらったのか、どのように発展していったのか。

・地域の未来を明るくしようと思う気持ちと、それに伴う努力の重要さを感じた。

・この授業でどのようなことをしたらいいのかという考えが変わりました。これからは様々な文化を取り入れながら地域が発展して行ってほしいです。

・日系人の努力のすごさがわかった。その土地を活性化させるときに役に立った日本人の知恵はあるか。

・簡単にできることではないと思った。それをやり切った日系人はすごいと思った。

・最初のころの生活費などはどうしていたのか。

・外国の良いところ（政治、治安など）

・昔の日本人はあきらめない心が強いと思った。外国の土地でできるなら、今住んでいる地域でもできるんじゃないかと思った。

・地域についていろいろなことを考えることができた。日系社会で生きる人は、何を求めるのか。（裕福でない人たち）

・パラグアイに行ってよかったこと。

・移住してゼロから始めるときに僕なら心が折れて逃げ出していたかもしれないと思ったので、現在も働いている人はすごいなと思いました。また、政府が管理したとはいえ日本人というよそ者を受け入れる体制を取り入れたパラグアイの人々が優しいなと思いました。

・何もない場所から新たなものを作り出すのは難しいことだと思う。僕だったら投げ出

してしまいそうだった。

・どんなに荒れ果てた土地でも、ゼロからのスタートでも、そこに人々の協力と諦めない努力をする心構えさえあれば、実現できると確信しました。開拓をあきらめずに続けられた要因は何ですか？

・初めての場所だったら、言葉が通じなかったりもして、対立することはなかったのか、また、文化などの違いはどうやって克服するのか。

・パラグアイに日系の人が多くいるなんて知らなかった。他にもこんな風に日系人が多い国があったら知りたい。

・パラグアイで何にもないジャングルの状態からスタートして努力をしたということがすごいと思った。

・地域について考えられてよかった。他のものと比べたりすることで分かることもありました。意見がたくさんあってなるほどなと思うものがありました。地域について学ぶことも大切だと思いました。日系人には今の日本をどう思うか聞いてみたいです。

・ジャングルのような土地を見て、まず初めに自分たちがしないといけないと思ったことは何だったのか。

・街づくりで特に気を付けたこと。

・ほかの国で重要な役職についていてすごい。努力は大切。

・日本で、過疎地域から都市になるまでに活気を回復できた地域はあるのか。

・高い評価を得るためには、協力や努力、あきらめない気持ちが必要で、それは私も部活や勉強面においても同じなので見習いたい。

・移住して良かったこと。住み心地。

・ゼロからのスタートでも諦めない気持ちを持ち、行動することで道は開けるんだなと思った。

・どのように、発展するきっかけを作ったのか。本当に争い等なかったのか。戦後から今日までよくあそこまで進化したなと思った。やっぱり出稼ぎに行く人が、鉄系のものなど機械がないとできないようなことをするのは大変だと思う。

・一番の課題だったこと。まず何から取り組んだのか。

・知らない土地でゼロからのスタートでも諦めなければ、豊かな生活ができることが分かった。お互いの文化を尊重し、認めることが大切だと思った。

・新しい事を初めて成功させるためには、他の人と協力することであったり、物事をいろんな面から見る事、今までの経験から学習することなど色々なことを大切にしながら諦めずに努力することが大事だと思いました。

・人口が少なくてもパラグアイの人たちのように諦めずに頑張ったら活性化できるんじゃないかと思った。

・何も無い地域をあれだけ豊かな土地にできるのはすごいことだと思った。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載ください】

【途上国・異文化への意識の変容について記載ください】

(授業前)

- 「歴史的に日本が海外への移住・移民政策をとったことを知ってるか。」というアンケートを、60名ほどにとったが、「知っている」と答えたのは17名だった。
- ・知っていることとしては、「ブラジル」という記入が10件
 - ・「アメリカ」「アルゼンチン」「朝鮮」「満州」が1件ずつ
 - ・「江戸時代の東南アジアの日本人町」が2件
- 同アンケートでの「南米（中南米）について知っていること」への自由記述
- ・「コーヒー」「暑い、暑そう、高温多湿」「植民地、かつてヨーロッパの植民地だった」が5件
 - ・「リオのカーニバル」「サッカー」が4件
 - ・「リオオリンピック」「高山気候」「アマゾン川」「貧困」「黒人・肌が黒い」が3件
 - ・「スペイン語が公用語」「じゃがいも」「リヤマ・アルパカ」「マチュピチュ」「日本の裏」「白人」が2件
 - ・「広大な国土」「チリ津波」「赤道直下」「ポンチョ」「数十年以内に独立した国が多い」「先進国ほどではないが発展している国もある」「ブラジルは痴漢が多い」「足が速い（ボルト）」「チリのフィヨルド」「ケバブ」「チリソース」「歌が好き」「ナスカの地上絵」「コロンブス」「麻薬」「児童労働」「ジャングル」「発展途上国」「ジカ熱」「湖の上（浮草）に浮かんでいる島がある」が1件ずつ

(授業後)

まだ分からない。

【8】自己評価

<p>1. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「【6】本時の振り返り」でも述べたが、教師海外研修と学校の中での授業とに必然性を持たせるテーマを設けるのが難しいと感じた。 ・実践日と時数が、直前まで決まらず、実践そのものが難しかった。 ・生徒にとって、知識を得ることと、そこから考えることとのバランス。 ・生徒に伝える知識面での、文献やインターネットで調べたら分かることと、授業者自身が研修を通じて得た知識や考え方、感じたこととのバランス。 ・パラグアイの日系社会の成り立ちなどのまとめ方、取捨選択。 ・参加型手法の取り入れ方。
<p>2. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動に、ピラミッドランキングを取り入れ、地域課題に対しての価値観の共有をすればよかった。 ・実践授業以外で、パラグアイやパラグアイの日系社会についての情報を伝える場を事前に用意しておけばよかった。また、事前に質問などっておけばよかった。 ・生徒に考えさせる面では、短絡的になったり、理想論になったりしたので、考えを深めるレベルまでの展開や手法を準備しておかなければならなかった。 ・個人の意見が出しやすいようにと思ってペア活動にしたが、6限目だったのでグループ活動にして、居眠りできない状況を作ればよかったかもしれないとも思った。
<p>3. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ分からない。
<p>4. 備考（授業者による自由記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画にない授業をするのはさまざまな難しさがあった。 ・上記「2. 改善点」で述べたように、授業だけでは伝えきれなかったパラグアイやパラグアイの日系社会について、実践後、ホーム通信でコラムを書いて、不定期で発行することにした。 ・実践日と時数を個人で設定できたならば、「地域探求学習」の中でも「移住促進」「地域の歴史」というテーマに絞り、来年度に取り組むのも効果的だと思った。 また国語科の中で扱うことができたなら、「異文化理解」「日本文化・日本人論」などの分野で取り上げてみたい。 ・学年全体や、全校で取り組むならば、どのようなテーマ設定が有効か知りたい。 ・政府が国民をだますような形での移民政策や、日系社会の閉鎖的な面という、移民・移住の負の側面を考える際に、注意する点やいい展

開の仕方はあるのか。

添付資料：授業時のパワーポイント
ワークシート【資料1】

参考資料：外務省HP、サンパウロ新聞HP、ディスカバー・ニッケイHP
パラグアイ日本人会連合HP、JICA HP、H29 教師海外研修資料

【資料 1】 地域探求活動「幡多の未来のために！

～Nuestras ideas なかこう生からの提案～

1年（ ）H（ ）番（ ）

目的 戦後の、日本（高知県）からパラグアイへ移住した人たちの作った日系社会を知り、その在り方から、幡多地域の将来像を考える。

Q 1（1） 幡多地域は今後どのように進んでいくのがいいでしょう？

Q 1（2） （1）の実現のために、大切にしたいこと、ほしいもの、しなければならないと思われること、取り入れなければならない技術とは何でしょう？

ペア



Q 2（1） 移住者が豊かな生活（≒パラグアイでの高い評価）を手に入れた要因とは何でしょう？

ペア

Q 1（3） 改めて聞きます。幡多地域は今後どのように進んでいくのがいいでしょう？

感想・日系人に聞いてみたいことなど

